

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第3回会議 県南地区部会（概要）

1 日 時

令和4年8月2日（火） 13：30～16：00

2 場 所

横手清陵学院高等学校 会議室

3 出席者

○秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会委員 9名

○事務局（高校教育課） 5名

4 協 議

委員からの主な意見

- ・ 地理的な問題から通学が困難であるとか、他の高校にはない特色をもって人材を輩出しているなどの特別な事情がない限りは、できるだけ早期に統合して、ある程度の規模の学校をつくった方が良いのではないかと考える。
- ・ 学校の特色についてなどの意見があるが、学校の統合は数の理論で進めるべきだと思う。具体的な高校の数については、大曲仙北地区は5校から4校、横手地区は4校から3校、湯沢雄勝地区は3校が良いのではないかと考えている。
- ・ 高校の数は減らしていかなざるを得ないが、学科を選べる環境は担保していかなければならない。学科を維持したり、学科構成を工夫することで、中学生の進路の選択肢を残す方法もあるのではないかと考える。
- ・ 横手地区統合校については、開校まで時間がかかり過ぎると、規模が小さくなったり、決めたことが時代遅れになってしまったりするので、統合するなら早いほうが良い。
- ・ 将来的に小規模校を多数維持していけるだけの教員数が確保できるものか、疑問である。
- ・ 地域などのバックアップで特色あるカリキュラムができるのであれば、存続もあり得るが、入学者が一桁程度になった場合は、それも厳しいと思われる。
- ・ 小規模校だと行き届く部分はたくさんあるが、できることがすごく限られてしまう。学校にはある程度の生徒数が必要である。

- ・中高一貫校については、目的をもってつくったはずである。まずは、教育委員会が定員割れの原因を分析するなどして、魅力ある学校づくりをしてほしい。
- ・定時制については、スペースイオなどもあるので、地域の機能を残すためにも必要である。